

DEGAM レポート 《令和 7 年度》Web 版

○ 公的統計（宿泊者の量的傾向）

- 国内旅行の宿泊旅行延宿泊者数は 469,302 人と前年とほぼ同数で、季節的傾向も安定している。
- 外国人の宿泊旅行延宿泊者数は 15,565 人で前年比 1.16 倍。

○ 旅行者アンケートの結果

- 回答者は 50～60 代の割合が高い傾向が継続。
- 居住地は首都圏の割合が最も多い。傾向は安定している。
- 旅行日程は 1 泊 2 日が最も多い。全体的には概ね例年どおりの傾向である。
- 宿泊費予算は 10,000 円が増加したが、10,001～20,000 円層が主体である傾向は変わらない。
- 来訪回数は初回が増加最も多い。全体の傾向に大きな変化はない。
- 昼食の嗜好は 1 位「海鮮・寿司」・2 位「ラーメン」・3 位「うどん・そば」が不動の順位。

○ 訪日外国人の滞在特性

- Taiwan market（台湾）が中心市場である。
- 冬期を除き、Asian market（アジア圏）と Western-market（欧米豪）の規模・特性に大きな差は認められない。
- 市場ごとの昼間・深夜滞在特性に大きな差は認められない。
- 需要は秋季から冬季に増加し、夏季に減少する傾向がみられる。

○ 使用データの収集方法と留意点について

- 「観光庁宿泊旅行統計調査」は令和 8 年 5 月 29 日公表の「第 2 次速報値」までを利用した。
- 「アンケート回答者レポート」は、宿泊・観光施設等で配布する「アクセスコード付きの名刺カード」で回答するアンケートによる調査結果である。

任意回答による自己選択型のアンケートであり、回答完了者を対象にインセンティブを付与して実施した。本結果は回答者集団の傾向を示すものであり、鶴岡市における観光客全体の傾向把握（母集団全体への一般化）や因果関係の推定を目的とするものではない。

また、多数の設問項目を含む比較的負荷の高い質問票で実施されているため、結果の解釈にあたっては回答負荷の影響について留意する必要がある。

なお、「静岡県立大学 経営情報学部 渡邊研究室」との共同研究であり、データはすべて「静岡県立大学 経営情報学部 渡邊研究室」より提供されている。

- 「鶴岡市における訪日外国人の滞在特性」は、ローミングデータおよび日本の入出国データに基づき推計した拡大推計値である。定義上、クルーズ船入国者（船舶観光上陸許可）は対象外となる。10:00～17:59 を昼間時間帯、2:00～4:59 を深夜時間帯としているが、旅行目的や宿泊行為を直接識別するものではない。

また、個人や属性の特定につながる可能性がある小数事例については、秘匿処理が施されているため、小規模な動きが実際に存在していても把握できない場合がある。このため、数値が小さい区分では、相対的に保守的な推計となる可能性がある。

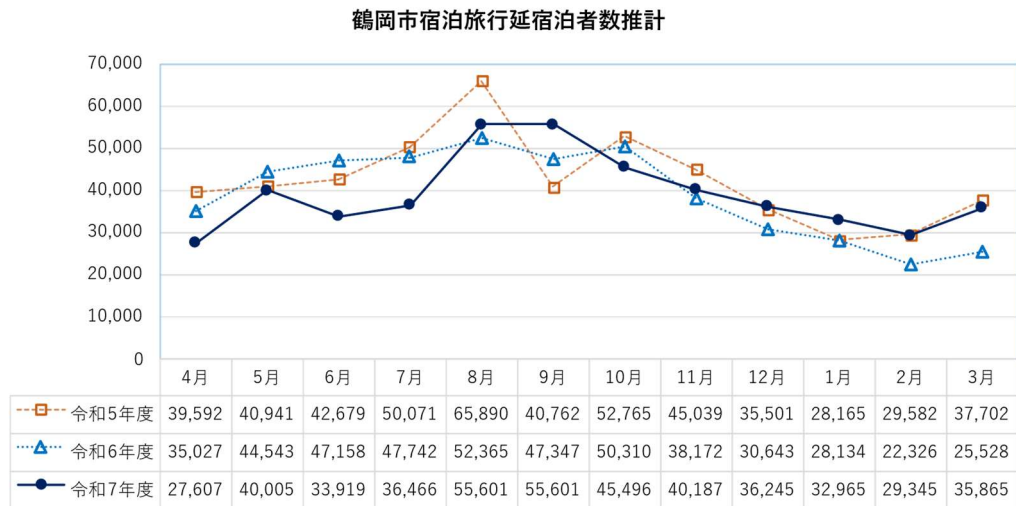
なお、「2 時間以上滞在した人数」を示すものであり、滞在時間の長短を反映せず、滞在が主目的なのか経路的滞在なのかは、本データのみでは判別できない。 出典：東北観光 DMP（データ提供元：株式会社インテージ）

- ・ 本報告書を引用し又は記載内容に基づいて資料を作成し、公表・配布する場合は、それぞれの出典および本報告書からの出典であることを明記してください。
- ・ 特に DEGAM 鶴岡 ICT アンケート調査は「静岡県立大学 経営情報学部 渡邊研究室」との共同研究であることを明記してください。
- ・ 営利を目的として本報告書を転載・配布又は利用目的に関わらず内容を改変することは禁止します。

お問い合わせ先 一般社団法人 DEGAM 鶴岡ツーリズムビューロー 担当： 押井 酒井

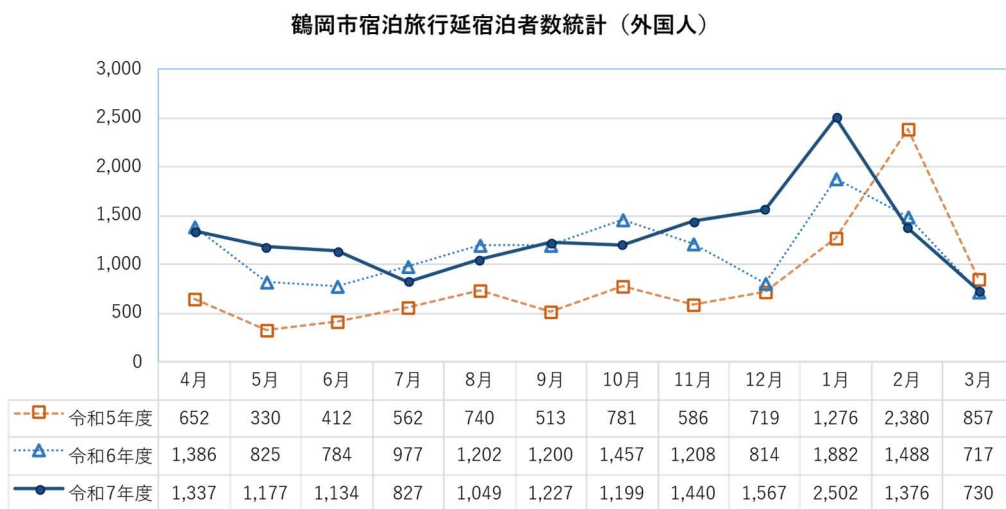
Ⅰ 公的統計データ 観光庁宿泊旅行統計調査

1 鶴岡市宿泊旅行延宿泊者数（参考第 6 表）



令和 7 年度は総計 469,302 人と前年とほぼ同数となった。季節的傾向も大きな変動なく、安定した傾向が示唆される。

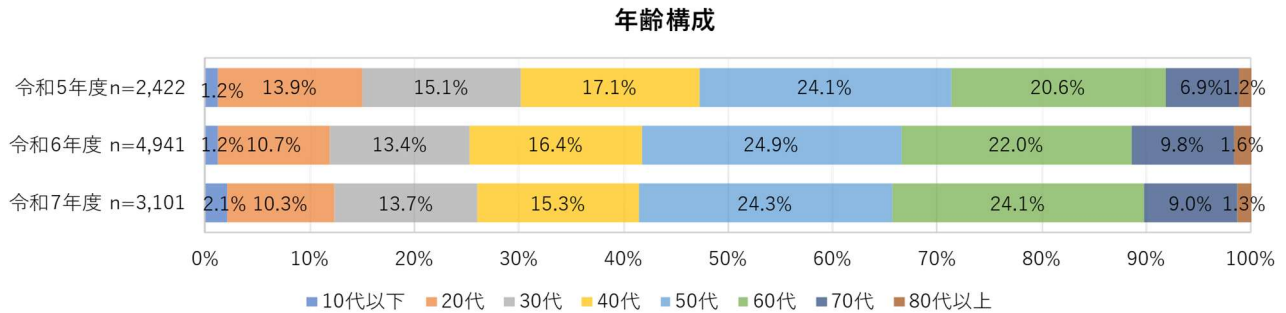
2 鶴岡市宿泊旅行延宿泊者数（参考第 8 表）



外国人宿泊者の令和 7 年度総計は 15,565 人であり、前年比 1.16 倍、対令和 5 年比で約 1.59 倍と続伸傾向である。

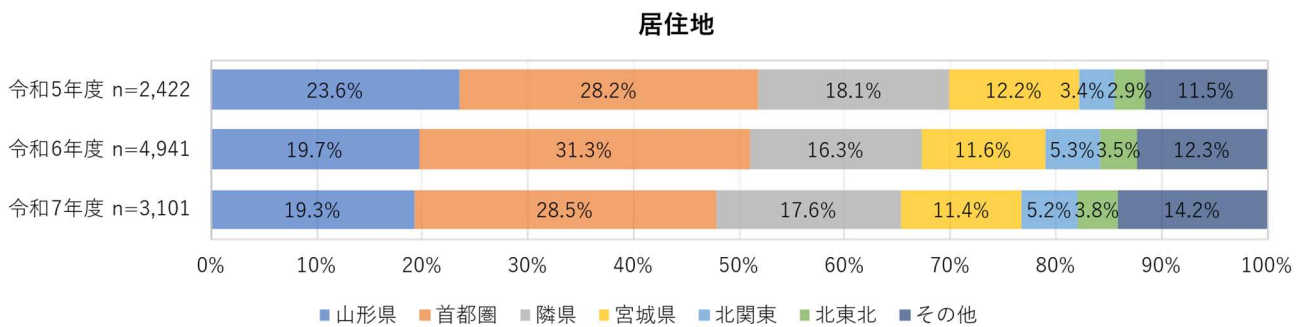
Ⅱ 令和 7 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）アンケート回答者レポート

1 年齢構成



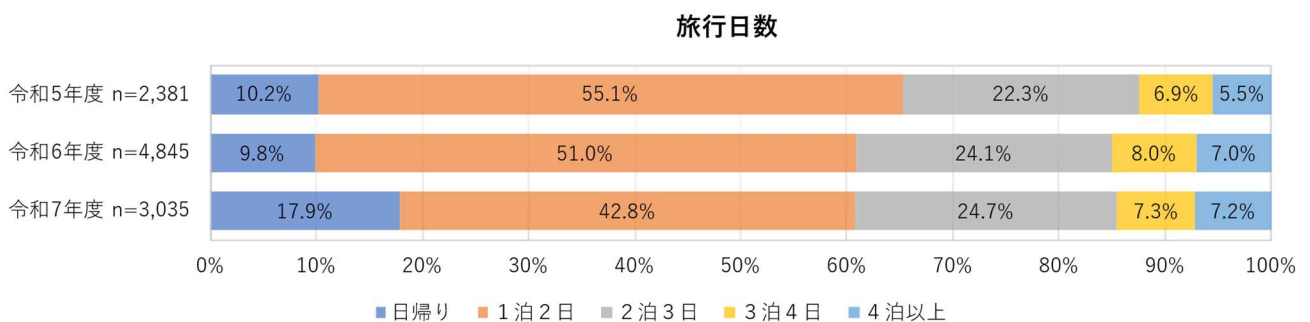
回答者は 50～60 代の割合が高い傾向が継続。

2 居住地



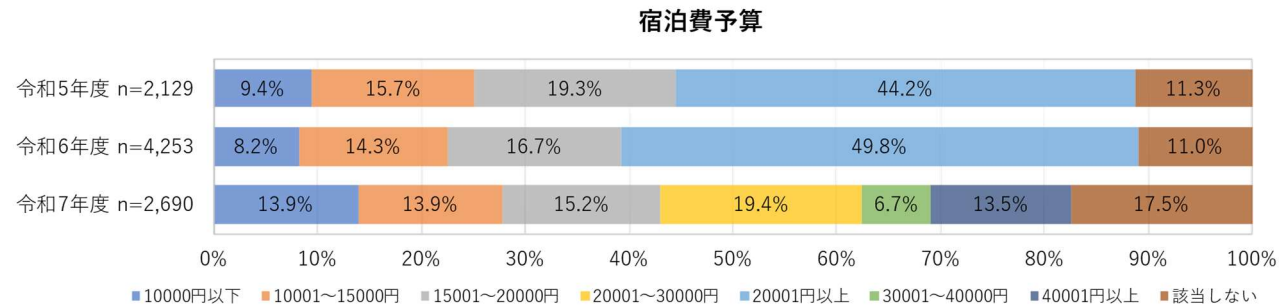
回答者の居住地は首都圏が最も多い。傾向に大きな変化は確認されない。

3 旅行日程



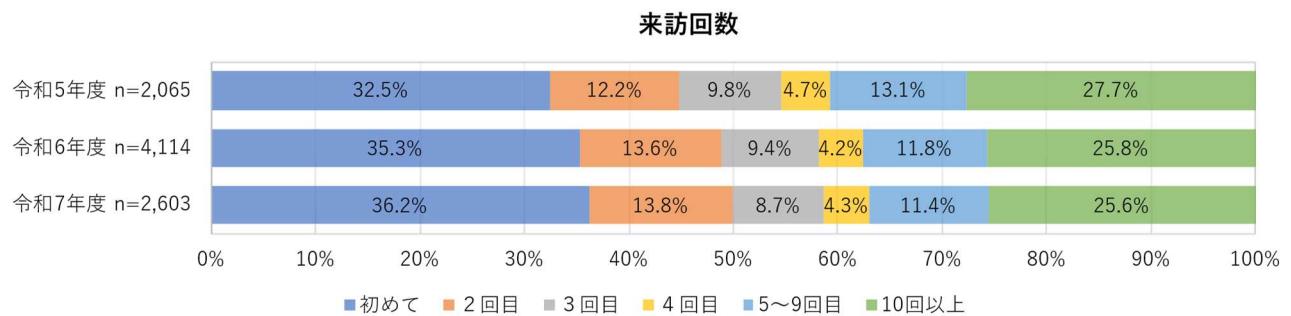
日帰り客の回答が増加したが、1泊2日の旅行日程が最も多く、全体的には各年度とも概ね同様の傾向を示している。

4 宿泊費の予算



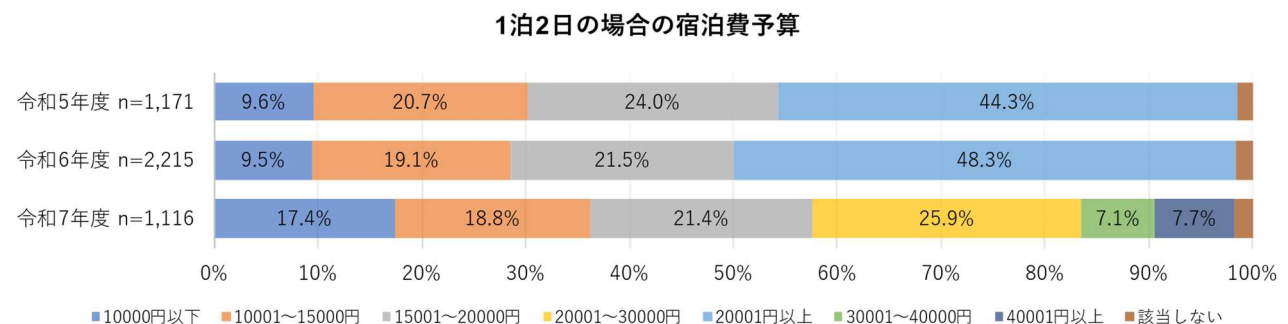
宿泊費の実態を反映させるため、令和7年より20,000円以上のカテゴリを細分化した。20,000円以下のカテゴリでは10,000円以下の回答者が増加しているが、10,001～20,000円の割合に大きな傾向の変化はみられない。

5 来訪回数



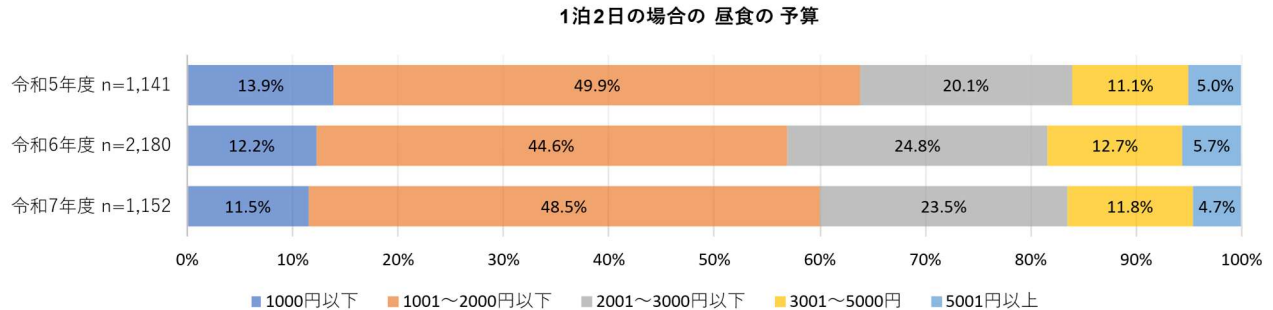
回答者の来訪回数は初回が最も多い。全体の傾向に大きな変化はない。

6 宿泊費の予算（1泊2日）



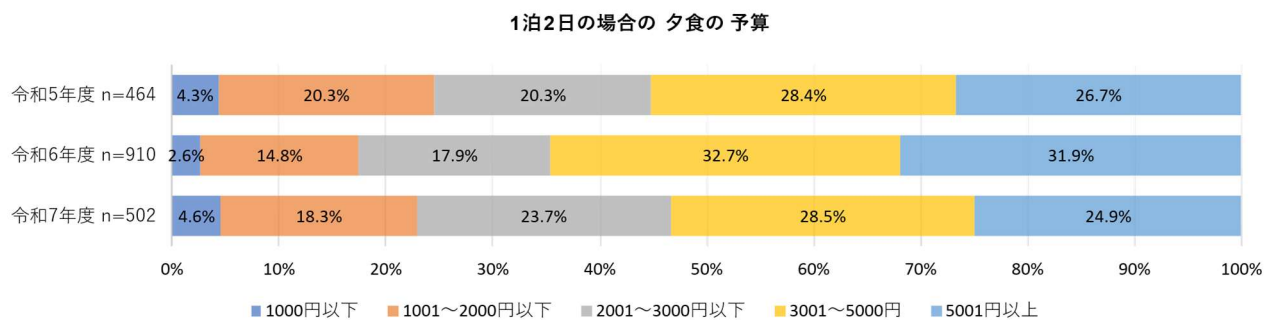
令和7年より20,000円以上のカテゴリを細分化した。20,000円以下のカテゴリで10,000円以下の回答者割合が増加し、20,000円以上のカテゴリでは回答者割合が減少している。

7 昼食の予算（1泊2日）



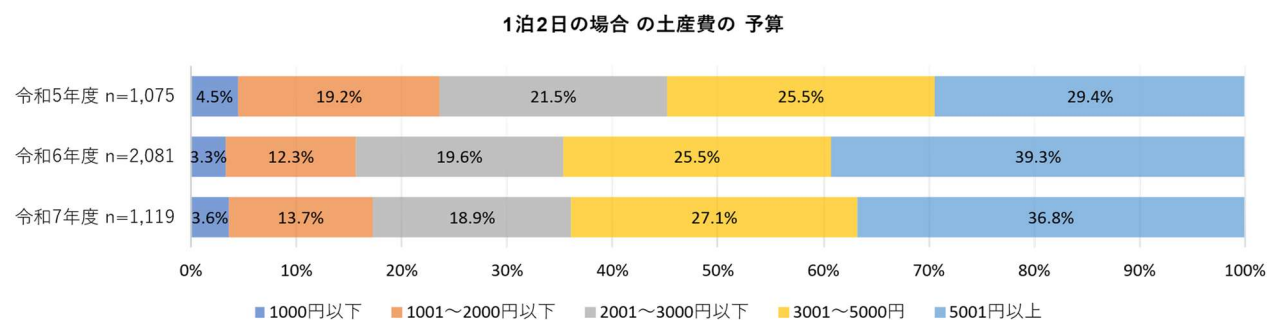
昼食費の傾向は両年度とも同様の傾向である。

8 夕食の予算（1泊2日）



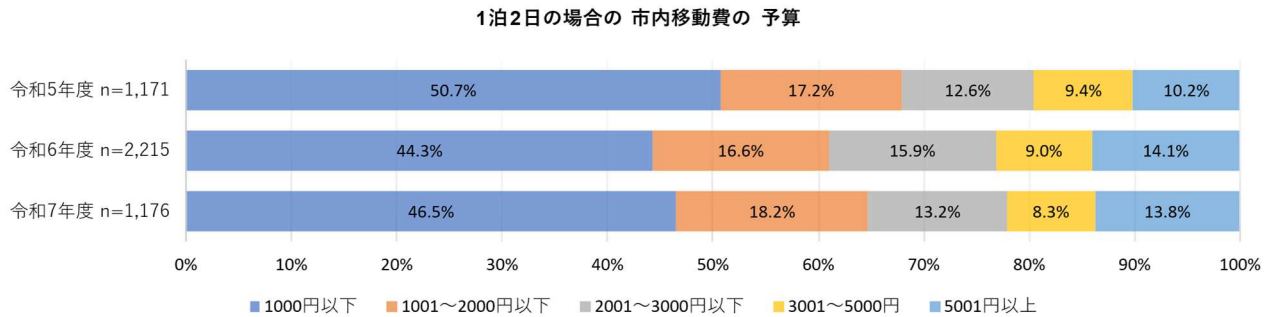
令和7年度は令和6年度に比較すると、3,000円以上のカテゴリが減少しているが、令和5年度比とは傾向が同様である。

9 土産費の予算（1泊2日）



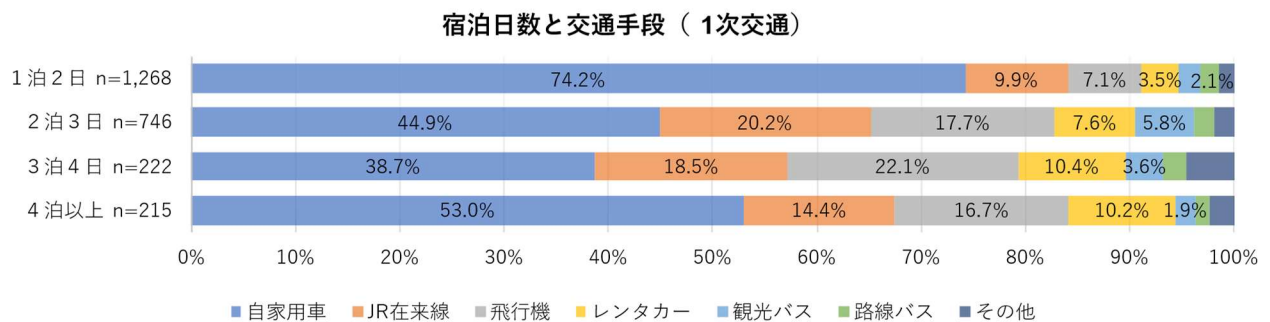
5000円以上のカテゴリが最も多く、3001～5000円、2001～3000円と続く傾向に変化はない。

1 0 市内移動費の予算（1泊2日）

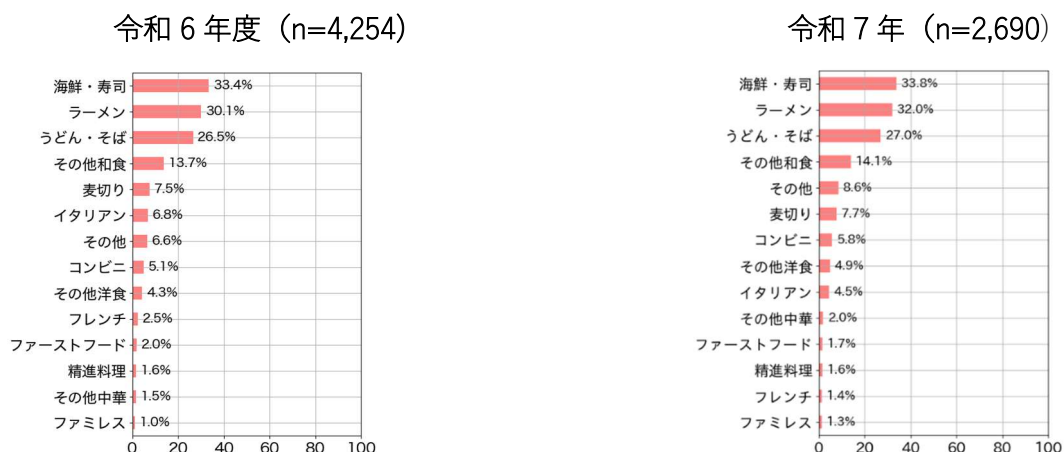


1000 円以下が最多であり、1001～2000 円以下、2001～3000 円以下と続く順位にも変動がない。

1 1 宿泊日数と一次交通

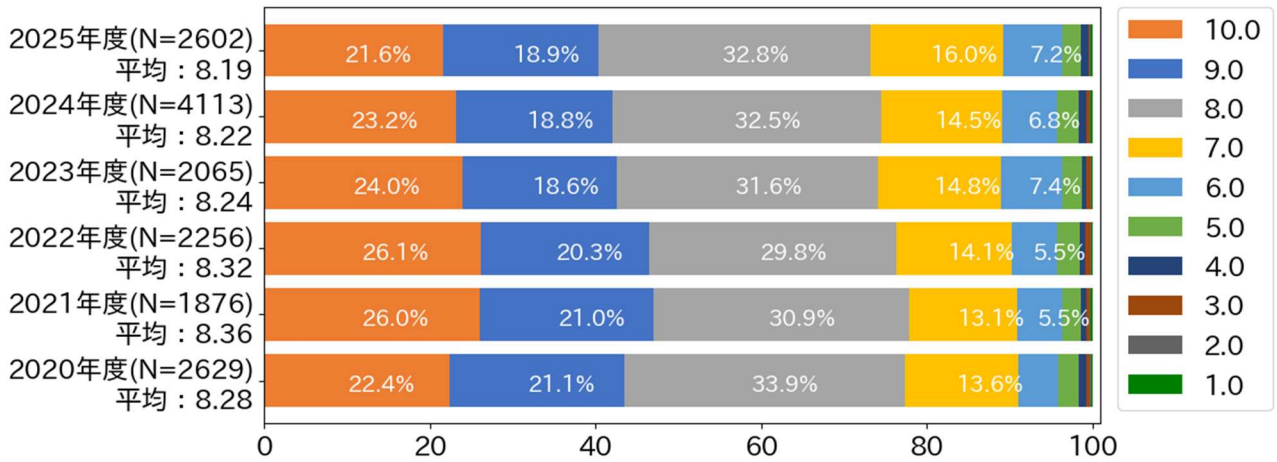


1 2 昼食のジャンル



海鮮・寿司、ラーメン、うどん・そばの上位 3 ジャンルに変動はない。

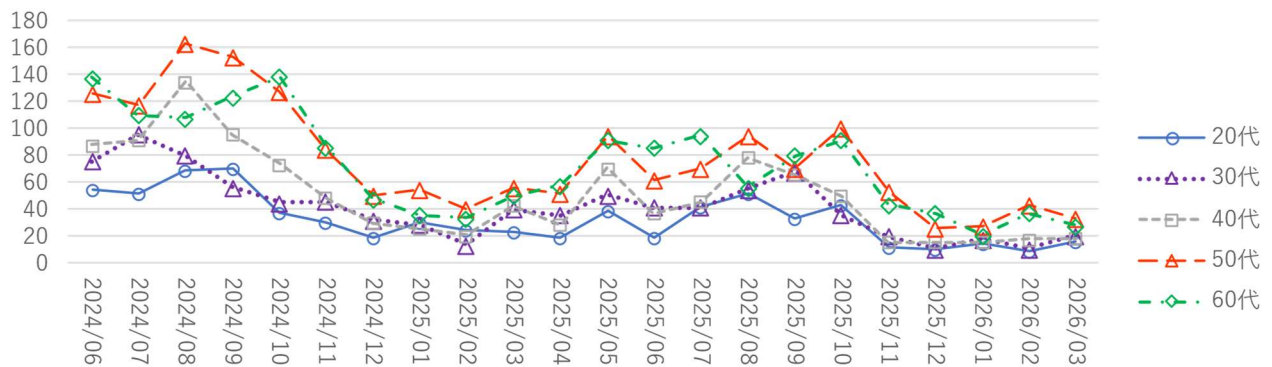
1 3 鶴岡旅行の満足度



スコア 8 以上の高スコア層の構成比が最多である傾向に変化はない。

1 4 アンケートのアクセス推移

鶴岡ICTアンケート調査アクセス推移（鶴岡市在住者を除く）



2024 年は突出したアクセス層と季節があったが、2025 年は平準化する傾向が見られる。

Ⅲ 令和 7 年（2025 暦年） 鶴岡市における訪日外国人の滞在特性

分析対象

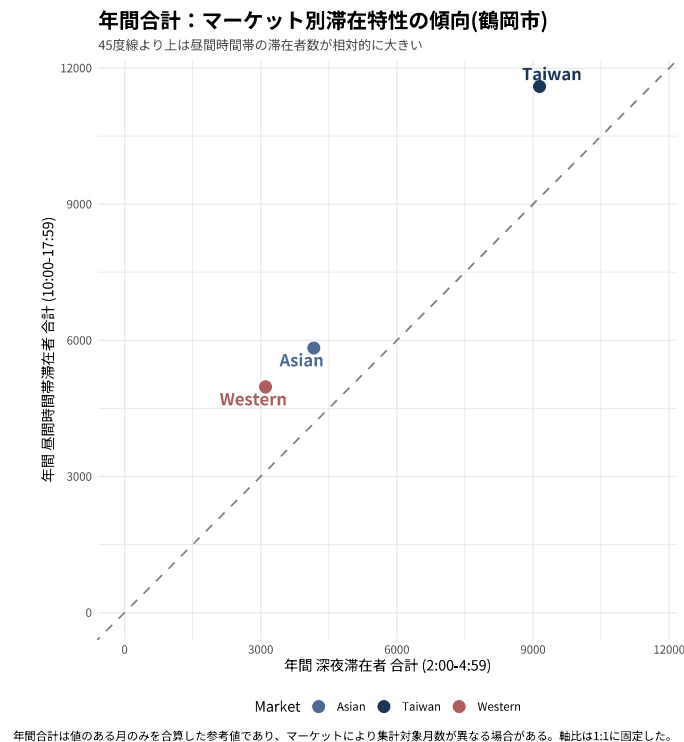
空港入国時に国籍が把握された訪日外国人のうち、日本に 24 時間以上滞在した旅行者を対象とした。値は各地点に 2 時間以上滞在した推計人数である。

※ データ出典：東北観光 DMP（データ提供元：(株)インテージ）

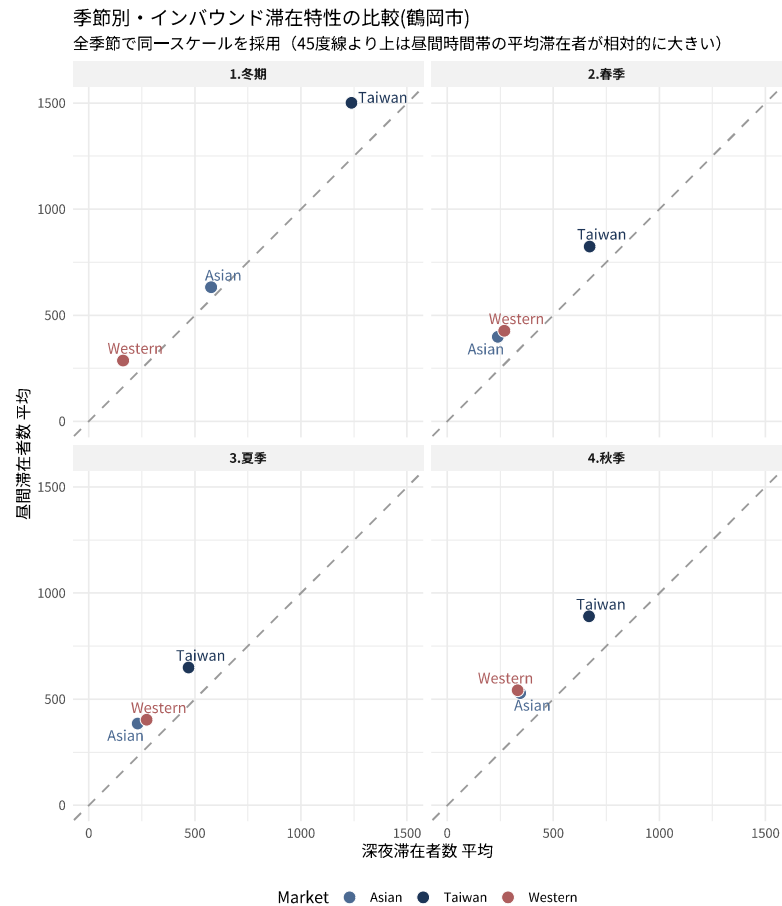
本報告では、国籍を Taiwan market（台湾）、Asian market（アジア圏）、Western market（欧米豪）の 3 市場に集約して比較した。

散布図は昼間滞在者数と深夜滞在者数の関係を示している。45 度線より上側は深夜滞在傾向が、下側は昼間滞在傾向が相対的に強いことを示す。

散布図 年間合計



散布図 季節別



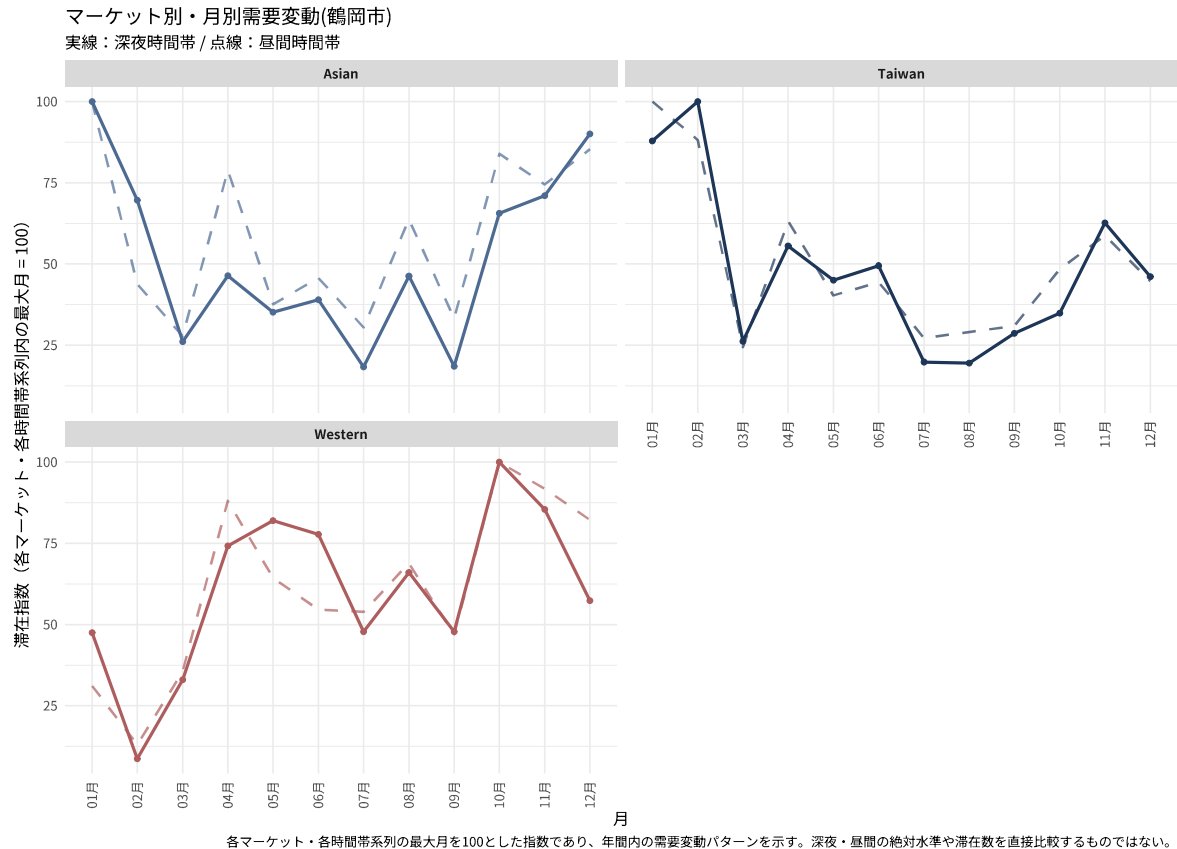
季節によっては、閾値以下または欠測のため図中に点が表示されないマーケットがある。各点は当該季節に値のある月の平均値である。

散布図概要

- ・ Taiwan market が中心市場である。
- ・ 市場ごとの昼間・深夜滞在特性には大きな差は認められない。
- ・ 冬期を除き、Asian-market と western-market の規模・特性に大きな差は認められない。

需要特性

マーケット別需要の月次推移（年間最大月=100）



- ・ 需要は秋季から冬季に増加し、夏季に低下する傾向がみられる。

以上